
年の差 1 6

花音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

年の差16

【Nコード】

N7867Z

【作者名】

花音

【あらすじ】

16歳で親になった、孤児院育ちの南 勝喜と南 鈴。孤児院で育ち、愛情の表現がわからない将喜とそれを優しく包み込む鈴の物語。

ブログ

私、南^{みなみ}鈴^{りん}。現在は20歳。4歳と1歳の娘と2歳の息子、同じ年の旦那と幸せに過ごしています。

私と旦那の南^{みなみ}勝喜^{しょうき}は幼いころから同じ孤児院で育ちました。子供が多く、部屋が少ない孤児院では男女を一緒に部屋にすることもありました。

私と夫が同じ部屋になったのは5歳のとき。

それから11年後には私たちは親になっていました。

そんな私たちのスタートからこの物語を始めようと思います。

未熟な親ですが・・・

いつもと違う

孤児院で育った勝喜はいつも静かで冷たかった。

ほとんど誰にも心を開かない彼がああ晩だけは違った。

―午後10時―

「？あれ？勝喜？どうしたの？こんな時間に滅多に起きてることないのに・・・」

彼は窓の外を見てぼんやりしていた。

「なんかあった？変だよ。電気もつけないでさ。ん？なにがあったの？鈴に話してよ。・・・まあ、無理だよな、それは。」

彼はピクリともせず月のきれいな空を見ていた。小さな窓から。

「鈴・・・あの・・・」

「あ！流れ星っ！はじめてみた。あ・・・ごめん。なんだっけ？」

横目でちらりと勝喜を見るといつも青白い顔がオレンジ色だった。

「俺・・・鈴と一生一緒にいたいんだ。どうしたら居られる？」

「そんなん、普通は無理よ。一生居られるのは、子供がいたり・・・かな？」

そこからがいつもとはさらに違う将喜だった。

抱きついてきたのだ。

「そんなら、俺の子供を・・・産んで。不幸にはしん。お願い。寂しいんだ。」

彼は泣きそうだった。

彼の両親は彼を生んですぐに離婚。

親権は父親にいったが、父親は新しい女を作って将喜を捨てた。

この日の夕方に今でも憎い両親から手紙が来たらしい。

「今、東京に居ます。私たちは何度も話し合ってやり直すことにしました。身勝手にあなたを捨ててしまったけれど、あなたは私た

ちの子供です。もうすぐ高校生になると聞いています。北海道では友達もあまりいないと聞いているので、準備はあまり必要ではないでしょう。遅くても来年には迎えにいきます。手紙の返事待っています。」

これを読んであまりにもひどいと思ったけど、この孤児院に居るのはそんな親に捨てられた子供ばかり。私の両親は、弟はかわいがっていたけど、私はいらなかったみたいで結局捨てられてしまった。だから、迎えに来てくれるだけでもまじだといった。すると、

「いやだ。だって鈴といたいんだ。お願い。俺の子供産んで。大切なんだ。」

彼の本気の話し方に私は反論できなかったし、彼の子供なら心配することはないと思った。彼はまじめで几帳面でまっすぐだから、私を捨てたりはしないだろうと。だから、彼の子供をはらむ覚悟をした。

最初。

彼とは、というか、私は誰とも関係を持ったことがなかった。彼も同様だというが、外見がすばらしく美しい彼は何人にも迫られたことぐらいはあるだろう。

その晩が最初だったが、2ヶ月ちよつとで変化が現れてきた。本やパソコンで調べたような、妊娠の兆候が。そしてつわりらしいことも。

彼の驚異的な繁殖力には驚かされたけれど、まだわからないから彼には一言も言っていない。

あの晩から、彼も何もいわなくなった。

翌月、思い切って検査薬を買い、使ってみると、なんと陽性。

慌てふためいて、よくわからなかったけど、なんとか産婦人科に行った。

まだ誰にも言っておらず不安でいっぱいだったけれど、診察室に入室。

「こんにちは。今日は・・・妊娠の検査ね。またお若いお母さんね。15歳。まあ、調べてみましょう。」

先生はとても親切だった。

そして、結果は・・・

「ほおら、ここよ！赤ちゃん。今は・・・12週目よ。私も実は中学生のときに経験があるの。でも反対されてね。結局、だめだったの。15歳じゃ親になるのは、やっぱり早すぎるのよ。それで子供を捨てる人も少なくないみたいだし。どうする？産む？」

先生の笑顔は真剣な顔になっていた。

「産みます。」

迷いなく告げたその言葉に先生は笑顔を見せた。

「がんばって。私も精一杯バックアップします。今度は恋人君と来てね。じゃあ。」

その日は検査結果の紙などもろもろをもらって孤児院に帰った。
今日は7月に入ったばかりの日。

院長はみんなにお菓子を配っていた。

あらかじめ、高校卒業後に結婚するとは告げてあった院長に今日は妊娠の報告をしなくてはいけない。

それから、勝喜にも。

「勝喜・・・これ・・・」

勝喜に見せると、私を近くにたぐりよせて窓辺で初めて、勝喜は笑顔を見せた。

「俺が幸せにするって誓うよ。」

院長には大丈夫なのかと散々聞かれたけど、私たちが責任を持つて幸せにすると言った。

こんなにうまくことが運ばれていくと少し不安だけど、幸せになると私は誓う。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7867z/>

年の差16

2011年12月25日13時48分発行